

# 巻頭言

## 第77回日本医学放射線学会総会を開催するにあたって

第77回日本医学放射線学会総会 会長  
東海大学医学部 専門診療学系画像診断学 教授  
今井 裕



今井 裕 先生

第77回日本医学放射線学会(JRS)総会は、2018年4月12日(木)～15日(日)の4日間、パシフィコ横浜にて、第74回日本放射線技術学会(JSRT)総会学術大会、第115回日本医学物理学学会(JSMP)学術大会ならびに日本画像医療システム工業会(JIRA)が運営の国際医用画像総合展(ITEM 2018)との合同で、Japan Radiology Congress(JRC) 2018として開催いたします。この度、第77回日本医学放射線学会総会の大会長を務めさせて頂くことを大変に光栄に存じます。また、国際医用画像総合展の開催では、多くの医療機器企業や製薬企業の皆さまにもご協力頂いており、心から感謝申し上げます。

放射線医学は、近年の医療技術や画像診断装置の急速な進歩・発展により我が国の医療において欠くことのできない重要な領域となっています。そこでJRCの中に位置する日本医学放射線学会では、将来の国際社会における放射線医学や医療の役割をデザイン、そして予知できるような学会にしたいと考えています。そこで大会の主題(テーマ)は、“夢のような創造科学と人にやさしい放射線医学”(Innovative Science and Humanism in Radiology)と致しました。日本医学放射線学会は、これまでも産官学連携の取り組みにより、当時は絶対に不可能と思われていた画像情報や治療技術を短時間のうちに実現してきました。これからは、放射線診療においても人工知能(artificial intelligence: AI)を活用した画像診断や治療技術への応用が必要になります。そして、今後も夢のような創造科学を追究して参ります。

一方、診療におきましては、温かな血の通った人

の手、人間の手に支えられた放射線医療でなければなりません。どんなに科学技術や人工知能が進化しても、それを扱うのはあくまでも人間であります。それゆえに創造的な頭脳と豊かな人間性を兼ね備えた放射線科医の育成や教育が重要です。放射線科医は、極めて高い専門的知識や技能を有し、高い臨床能力と倫理的な理解を備え、さらに卓越性、説明責任、思いやりや利他主義と言った医療プロフェッショナリズムを身につけなければなりません。このような主題に沿ったプログラムを企画し、多くの参加者をお迎えしたいと思っています。



Fig.1 JRC 2018 ポスター

## はじめに

我が国の放射線医学の歴史を紐解くと、1895年11月8日にドイツの物理学者であるヴィルヘルム・コンラート・レントゲン教授がX線を発見した翌年の1896年(明治29年)に島津製作所の二代目島津源蔵氏の手により日本で早くもX線写真が撮影されています。そして、1909年(明治42年)には国産初の医療用X線装置を開発し、国府台衛戍病院(現在の国立国際医療研究センター国府台病院)に設置されました。1913年(大正2年)には、東京と大阪でレントゲンに関連する研究会が発足し、1923年(大正12年)には、日本レントゲン学会が創設され、日本レントゲン学会誌も出版されています。一方、1933年(昭和8年)には、新たに日本放射線医学会が発足され、慶應大学の藤浪剛一先生が第1回会長を務めています。その後、日本医学放射線学会は、「日本レントゲン学会」と「日本放射線医学会」が統一されて1940年(昭和15年)に設立され、翌年4月に第1回日本医学放射線学会総会が、初代会長である真鍋嘉一郎先生のもとで開催されています。その際の特別講演は、1949年(昭和24年)に日本人として初めてノーベル賞を受賞された湯川秀樹先生による「放射線と物質」という講演でありました。

JRCの歴史は、北米放射線学会(RSNA)を参考にして1987年(昭和62年)に放射線医学関連の学術集会と機器展示との合同で開催することを目的に日本医学学術集会振興協会(Japan Federation of Medical Congress Promotion:JMCP)が設立されたことに始まります。そして、翌年の1988年3月29日に東京晴海国際見本市会場にて第1回JMCP学術大会が開催されています。そして2002年(平成14年)には、現在のJRCの名称に変更されました。し

たがって、学術集会と機器展示の合同開催が誕生して、今年のJRC2018学術大会は記念すべき30回目になります。当初は、日本医学放射線学会、日本放射線技術学会および日本画像医療システム工業会との3団体で発足し、その後2005年には日本医学物理学会が加わり、現在のような4団体での共同開催となったのです。

このような永い歴史のあるJRCは、これまでに放射線医学関連として重要な3学会と急速な進歩を遂げる放射線医療機器を展示することにより、学会員ならびに放射線医療に従事する、あるいは目指す若い研究者達に、将来の放射線医療を目指す羅針盤としての大きな役割を果たし、彼らに多くの勇気と希望を与えてきたのです。

## JRC 2018の合同企画

4団体の合同企画としては、4月13日(金)に国際医用画像総合展の開会式からスタートします。この展示会は医療関係者が最新の医療機器の進歩や多くの可能性を自分の目や耳で確認できる場所であり、今後の放射線医療の方向性を知るうえでも重要な機会でもあります。この国際医用画像総合展は、放射線医療を支える医療機器メーカーや安全な造影剤の開発を目指す製薬業界など多くの企業の協力により開催されており、心から感謝申し上げたいと思います。

JRC2018の開会式では、主催者を代表して3学会の大会長ならびに日本画像医療システム工業会の会長から各団体の今後の将来構想や方向性に関する講演を予定しています。また、表彰式では、海外からはハーバード大学のHerbert Y. Kressel教授、ユタ大学のSatoshi Minoshima教授、ソウル国立大学のSeung Hyup Kim教授の3名に、国内からは、松井修先生、早瀬尚文先生、片田和広先生、山田章吾先生、甲田英一先生の5名に名誉会員の称号が授与されます。また、特別講演は、2002年にノーベル化学賞を受賞された島津製作所 質量分析研究所 所長である田中耕一先生に、「分析と医用の融合によるヘルスケアへの新展開のために」と題した最近の研究成果も含めての講演をお願いしています。

合同シンポジウムとして、合同シンポジウム1では、放射線医療において欠くことのできない最重要課題である「医療被ばく低減に向けての取り組み」

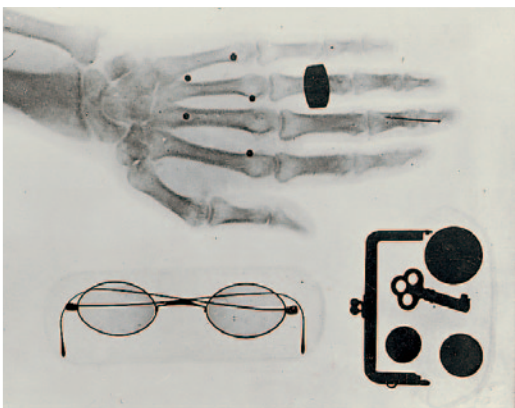


Fig.2 二代目 島津源蔵氏らにより撮影されたX線画像

を企画しており、Keynote LectureをICRP ChairのClaire Cousins先生にお願いしています。このテーマは、昨年(2017年)9月23日にも東京にて、日本医学放射線学会と日本学術会議との共催で開催した「レントゲンの日記念」市民公開講座でも取り上げました。これは、現在、日本医学放射線学会が本田浩理事長を中心に委員会を立ち上げ、取り組んでおります「放射線医療“安心・安全”プロジェクト」(Japan Safe Radiology)を一般市民の皆さまにご紹介申し上げたイベントです。本プロジェクトは、画像医療情報を全国規模で集積し、画像診断各領域における安全性・効率性等を統合して向上させるシステムを構築することを目的としており、装置の適正配置やメンテナンスの安全管理、専門医による機器の適正使用、診断参考レベルに基づいた被ばく線量管理、画像データの標準化による生物学的効果指標(バイオマーカー)としての活用、診断報告書の質保証など放射線医療全体の構造改革を目指しています。当日は、厚生労働省にて医療被ばくに関してご指導を頂いている佐々木健先生にも「医療被ばくの適正管理に関する国の政策について」のご講演をして頂き、総合討論にも加わって頂きました。当日は、多くの一般市民の皆さま、医療機器関連の企業の方など多くの方々にご参加頂いたことに心から感謝申



Fig.4 市民公開講座 総合討論

申し上げます。

合同シンポジウム2は、「本質にせまる研究をしよう！：前臨床研究へのお誘い」を企画しています。招待講演は、米国国立がん研究所(NIH)主任研究員である小林久隆先生にお願いしており、最新の研究成果も含めて「がんの近赤外光線免疫療法」に関してご報告頂く予定です。

合同シンポジウム3は、「放射線診療におけるRadiomics研究の現状」を企画しており、シカゴ大学のSamuel G. Armato III教授に基調講演をお願いしています。放射線医学において多量に発生する情報をいかに系統的に扱い、診断、治療方針の決定や予後予測の精度を高めることを目的としており、個別化医療にも結びつく可能性があります。

合同教育セッションでは、「前立腺がんの診断から治療まで」をテーマとして、泌尿器科医、放射線診断医、放射線がん治療医、核医学専門医、放射線技師、医学物理士のそれぞれの立場からの教育講演をまとめた企画で、前立腺がんの診断から治療までに関連するすべての過程を知ることができます。

また、最終日の閉会式では、優秀発表に対する表彰式のほか、恒例の4団体からの構成員によるオーケストラの演奏も予定されています。

## JRS 2018のプログラム

本総会には、国内並びに海外から548演題もの一般演題の応募を頂きましたことに心から感謝申し上げます。また、JRS2018では12のシンポジウムを企画しており、肝胆膵領域、循環器領域、乳がんの診断、PETによる認知症の診断、拡散強調画像、融合画像、定量画像と標準化、門脈圧亢進症とIVR、小児神経疾患、薬剤による合併症の画像診断、放射線

**「レントゲンの日記念」市民公開講座**  
公益社団法人 日本医学放射線学会、日本学術会議 共催

## 医療被ばく低減に向けての取り組み

2017年9月23日(土・祝日)  
13:00 ~ 17:00 (受付開始 12:30)  
東海大学高輪校舎2号館 大講義室  
(東京都港区高輪 2-3-23)

**【会場のご案内】**  
JR 有明駅行(丸の内線)下車、高輪口より徒歩約15分  
バス(日暮里駅行)下車(丸の内線)徒歩約17分、徒歩約3分  
東京メトロ池袋線、都営地下鉄三田線(白金高輪駅)下車、出口1から徒歩約5分  
都営地下鉄有楽町線(有楽町線)下車、A2出口より徒歩約10分

ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン

**入場無料**  
事前申込不要

**プログラム**

開会の挨拶 今井 裕 第77回日本医学放射線学会 大会長  
理事長挨拶 本田 浩 日本医学放射線学会 理事長

- ① レントゲンの生涯 講師 今井 裕 (東海大学)
- ② 「放射線医療“安心・安全”プロジェクト」について 講師 本田 浩 (九州大学)
- ③ CTの技術進歩と臨床応用の現状 講師 陣崎 雅弘 (慶應義塾大学)
- ④ CTの放射線被ばく低減の取り組み 講師 栗井 和夫 (広島大学)
- ⑤ 海外での Choosing Wiselyについて 講師 隈丸 加奈子 (順天堂大学)
- ⑥ 画像バイオマーカーの開発と検査の標準化 講師 井上 登美夫 (横浜国立大学)  
- 日米の放射線学会における QIBA の取り組み -
- ⑦ 医療被ばくの適正管理に関する国の政策について 講師 佐々木 健 (厚生労働省医政局)
- ⑧ 総合討論 および プレズリソース (45分)

司 会：本田 浩、今井 裕  
ディスカッサー：佐々木 健、青木 茂樹、井上 登美夫、陣崎 雅弘、栗井 和夫、隈丸 加奈子  
開会の辞 青木 茂樹 日本医学放射線学会 副理事長

● 共催メーカー  
シメンス GE ジャパン フィリップス 東芝 島津製作所 日立製作所  
● お問い合わせ先  
東海大学医学部 専門診療学系画像診断学 (〒259-1193 神奈川県伊勢原市下郷屋 143)  
TEL: 0463-93-1121 (内線 2400) Fax: 0463-93-6827

Fig.3 市民公開講座 ポスター

治療医育成のほか、科学論文の在り方など最近のトピックスを中心に12のシンポジウムを企画いたしました。また、アドバンスドMRI、肝臓領域、腎臓領域、骨格筋領域に関する4つのSpecial Focus Sessionも企画しています。そして、39テーマの教育講演と30のランチョンセミナー、さらに2つの研修医セミナーのほか、新しい双方向形式でのイメージインタープリテーションセッションを企画しています。

特別企画としては、12日(木)に頭頸部、胸部、婦人科領域の権威ある専門医による「症例で紐解く画像診断のコツ～エキスパートから学ぶ」と題した教育コースのほか、JRS男女共同参画・ダイバーシティ推進委員会およびJCR(日本医学放射線専門医会)共催企画として「働き方改革：自分らしく働くために」を企画しています。その他、14日(土)の午後には、東海大学吹奏楽研究会によるマーチング演奏と「スポーツにおける人材育成」として原辰徳氏と井上康生氏をお招きしての座談会形式でのトークセッションも企画しています。また、15日(日)の

JCRアワーでは、診療報酬改定、とくに管理加算をテーマに議論する予定です。その他、いま話題の人工知能(AI)に関する特別企画も検討しております。

## おわりに

日本医学放射線学会総会は、放射線医学全領域を網羅する学術集会であり、多分野から最新の研究成果や医学教育の報告のほか多数のシンポジウムが開催されます。また、日本国内のみならず、海外からの研究者も多く参加され、質の高い討論が行われます。従いまして教育講演を除いて発表スライドや展示発表は、原則英語として頂き、海外からの参加者にもより親しみやすい国際学会にしていきたいと思っています。

開催地の横浜は、世界でも美しい港町の一つとして知られており、春には桜の花が街を彩ります。どうぞ美しい横浜の街も、大いに楽しんで頂ければと思います。

多くの皆さまのご参加を心から願っております。

